

第42回Kozoom28 テーマ「今年1年を振り返って」

清水健二

今年1年、大病することなく無事過ごすことができ、正月を迎えられそうである。来年はいよいよ卒寿に突入する事になる。よくここまで生きてこられたものだとその幸運に感謝している。3年以上に及んだ新型コロナ感染が世界中を震撼させ、多くの犠牲者を出した。そして高齢者は特に要注意とされた。ありがたい事にその危険も免れたものの、人との交流が希薄になり巣ごもり状態の3年間の生活は、体力の減退を一層加速してしまったように思う。今年の春先からやっとコロナ禍が下火になり、制限されていた日々の暮らしがもとに戻りだした。

長く趣味で結ばれていた、美術協会やクラブ活動の仲間達との交流や発表会も徐々に再開した。しかしここでも少子高齢化の波が高く、会員の中でも高齢を理由に活動が鈍り、退会する人も増えてジリ貧状態に陥ってきている。幸い私の制作意欲は変わらず、独り楽しみながら制作してきたので、今年の展覧会や発表会への作品はストックがあって出品できた。今回はこのエッセイに今年発表してきた作品をピックアップして、紹介してみようと思い整理したのでご笑覧願いたい。

すでに述べてきているが、趣味で彫刻を始めて40年になる。サラリーマンを卒業して写真や絵画にも手を出して20年を超えた。人様から多趣味ですね、と言われることが多いが、私はそうは思っていない。御託を並べると、それぞれ制作工程は違って、できた作品も異なっているものの、創作への作者の志向は同じなので、よく観ると共通項を発見できるものである。彫刻は立体造形であり、絵画は色彩の平面造形であり、写真は生活の中で見聞する人・物や自然の営みを写し取る平面造形である。どんな分野においても、作品は何を狙って表現しようとしたのかという、意図と主張が求められる。そしてそれを作者は観賞者へ伝えなければならない。制作のスキルを伝えるのも大事だが、感動と共感を呼ぶ作品でなくてはならないと思う。そういう意味で彫刻も絵画も写真も共通するものだと思っている。

この1年間で私にとって記憶に残る事があった。毎年出品してきている展覧会に、秋開催される奈良県美術展覧会(県展)がある。今年は第74回目で、日本画・洋画・彫刻・工芸・書芸・写真の6部門が一斉に展示されるので盛大な展覧会になっている。私は彫刻の部門で連続して受賞することが多く評価されて、今年審監査員に推薦された。この歳になって晴れがましい事なので、辞退したが受け入れられなかった。会期は12月13日から16日に向けてすでに会場に搬入された公募作品の審査に、先日出向きお役目を果

たしてきた。

今まで奈良市の文化会館で開催されていたが、今年は明日香村の県立万葉文化館で行われることになった。明日香村は古くから飛鳥と呼ばれ、日本の歴史の発祥の地である。6世紀に物部氏と蘇我氏の抗争があり、日本への仏教伝来と大陸文化の導入に積極的だった蘇我氏が権力を握ったが、大化改新(645年)で蘇我氏が滅亡し、日本が律令国家として樹立する7世紀の100年強程が飛鳥の地が舞台であった。今なお多くの遺跡が残り、美しい山野や川は日本の原風景をとどめている。高層建築物やきらびやかな看板等は規制され歴史的風土保存地区として保存されている。

私が彫刻を始めて、京都や奈良の古刹を訪ね、仏像彫刻の勉強をしている中、日本最古の飛鳥寺を中心に歴史探訪を楽しみながらよく大和路を歩いたものである。万葉文化館はこの飛鳥寺のすぐ近くで、2001年に開館しているが、私が飽きもせず彫刻や絵画、そして四季の移ろいを写真にしてきた愛すべきこの地で、美術展が開催され、しかもお役目を果たすことになった不思議は、まさに幸運としか言いようがないと感じている。

以下、今年の主だった出品作品に 駄文を添えてご案内したい。

- ①「白い飛翔」 天王寺公園内、茶臼山に向かう赤い橋と白鷺、噴水の造形をシンプルな色彩を狙って表現してみた。



白い飛翔(天王寺公園)

- ② 「春の訪れ」 奈良県壺阪の古民家の残る町。早春の3月、菜の花を前景にひな祭りの人形と路地裏を歩く人を光と影を強調して撮った。



春の訪れ(奈良・壺阪)

- ③ 「好奇の目」 京都水族館 水槽の中の魚を凝視した少女の好奇心を捉えてみた。



好奇の目(京都水族館)

- ④ 「猿回し」 大阪府道明寺。2月の末、梅林内で猿回しの大道芸をしていて、猿が上手く芸を終えたので調教師が褒めてあげている場面が微笑ましかった。



猿回し(道明寺)

- ⑤「父と息子」 同じ道明寺で、父さんと息子がじゃれ合っている様子を母さんがスマホで写真を撮っている日常の光景を素直に撮った。



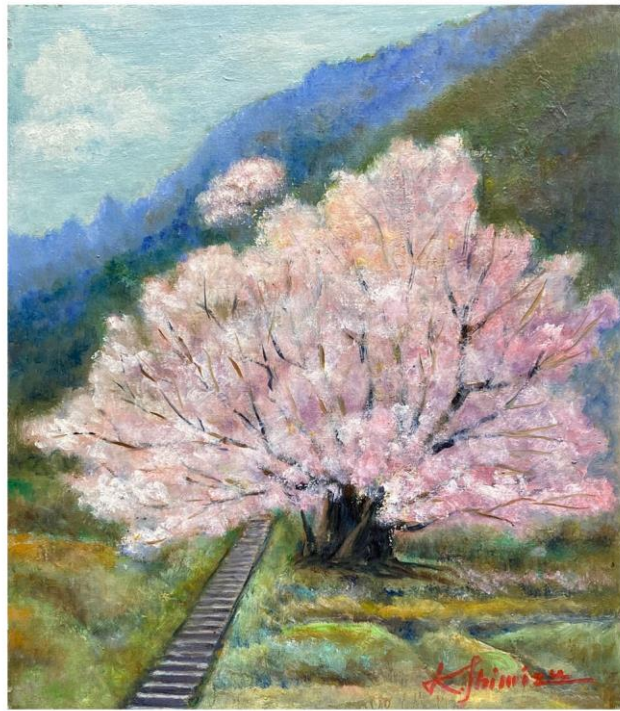
父と息子(道明寺)



ひな祭り(富田林)

- ⑥「ひな祭り」 大阪府富田林市 江戸時代の佇まいの残る寺内町で、3月のひな祭りに各家の雛人形を玄関先に飾って見物客を誘う。この老人も日常の装いで笑顔を見せる。ほのぼのとした雰囲気を感じた。

⑦「千年桜」(油彩画) 奈良県大宇陀市 仏隆寺。八尾市文化会館での絵画展へ出品。名刹室生寺の南の峠を超えて往くと、この千年桜に出会う。石段を登ると仏隆寺の山門に至る。



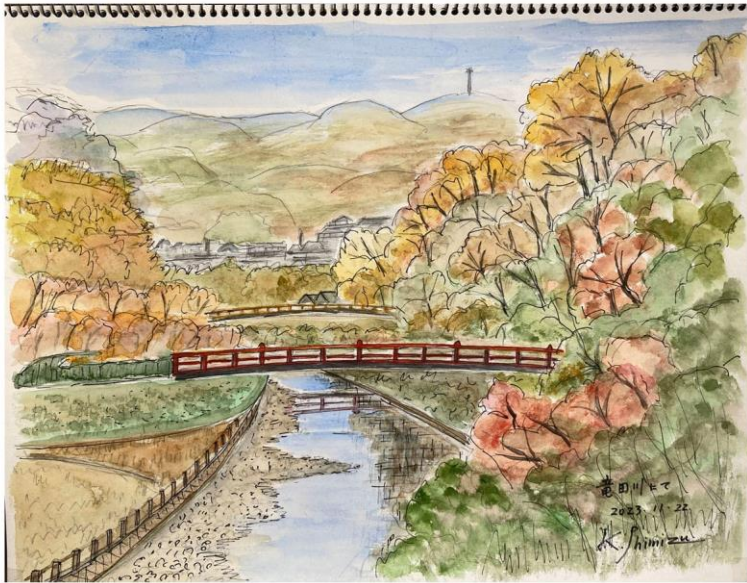
千年桜(奈良・仏隆寺)

⑧「雨上がりの里山」(油彩画) 飛鳥川の源流地、栢森(かやのもり)の秋雨の里山風景。八尾市民病院内のギャラリーは患者の憩いの場所で、市民からの絵画の公募を受けて1年間展示される。応募したら採択された。



雨上がりの里山(奈良・奥飛鳥)

⑨「秋彩」 奈良斑鳩町竜田川 11月に絵画クラブの仲間と写生会に行き描いた水彩画。竜田川は百人一首に出てくる紅葉の名所。静かでのんびりと絵筆を取っていると、あ



秋彩(奈良・竜田川)

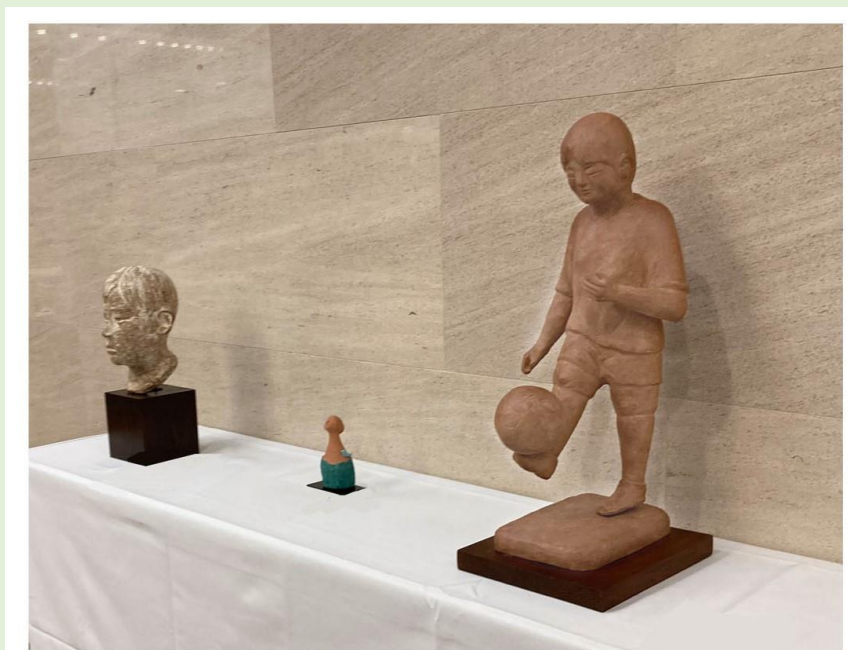
くびの出る雰囲気だった。
「千早ふる 神代も聞かず
龍田川からくれないに 水くく
るとは」(在原業平)
「嵐吹く 三室の山のもみじ葉
は 竜田の川の 錦なりけり」
(能因法師)

⑩「竹馬の少年」 9月豊中市芸術文化センターで開催された第76回創造美術展に出品した作品。



竹馬の少年(創造美術展)

⑪「サッカー少年」 12月奈良県立万葉文化館出品作品。(前述した奈良県展の会場で仮置きの状態をスナップしたもの)



サッカー少年(奈良県展)

⑩、⑪の彫刻作品には少年や少女をモチーフにすることが最近多くなってきた。私の子供の頃の思い出が何となくにじみ出てきているのかなと思っている。

ご紹介した作品の彫刻、絵画、写真から私の共通項を感じとって貰えれば幸甚である。

以上この1年の趣味三昧の生活を披露してみたが、健康に恵まれた幸を感謝し、来年も続けられたら良いなとお正月にはしっかり祈願しようと思っている。

令和5年12月記